

金沢市立千坂小学校

〔はじめに〕

本校は、金沢市の北部に位置し、昭和28年に開校した。全校児童は、645名、教職員は41名である。

学校の周辺には、たくさんのレンコン田が広がり、地域の特産物となっている。また、学校近辺には、「千坂ネイチャーフィールド」という学校園もあり、自然に親しむことができる。校区内には、国道8号線や北陸自動車道、JR北陸線などが走っており、交通量が多いのも特徴である。

平成23年度から、ユネスコスクールの認定を受け、地域や環境をテーマとして、持続発展教育の実践に取り組んでいる。

魅力発見！わたしのまち「千坂」

1 ユネスコスクールとしての取組

1年生 「あきといっしょねんちょうさんとなかよし」

本学年は生活科を主としながら、ESDの視点に立った学習指導を行っている。地域の自然や地域の人とかかわることを通して、それらに関心を深めるとともに校区に対する親しみがもてるようになることをねらった取り組みである。

「きせつとあそぼうあきといっしょ」の単元では、地域の公園へ秋見つけの散歩へ行き、木の実や木の葉など秋の自然物を利用して、遊びや遊ぶ物を作り、楽しんだ。そして、自分たちが楽しんだ遊びを年長さんにも体験してもらおうと、年長さんのことを考えて改良を重ね、12月に千坂保育園の年長児を秋の遊びランドに招待した。児童一人一人が年長児に遊び方を教えたり、手をつないで案内したりするなど、年下の年長児の気持ちに配慮しながら行動し、積極的にコミュニケーションをとるような主体的な姿が見られた。本単元を通して、児童が地域の自然や人に関心を深め、それらに親しみがもてるようになってきていると思われた。



2年生 「ひと・もの・自然との出会い」

生活科の学習で春、夏、秋の季節ごとに「ネイチャーフィールド」探検を行った。そこで、子ども達はバッタ、カマキリ、チョウやトンボ、カエルなど様々な生きものと楽しく関わることができた。しかも、ただ虫取りを楽しむだけではなく、正しい名前や体のひみつ、飼い方など本を通して調べてみたいという声もでて、事典を使って意欲的に学習を進めることができた。また秋には校区探検も行い、公園や交番、神社など地域によって町並みに違いがあることを発見できた。冬には廃品を利用した「遊んで、試して、工夫して」の発展学習として、「楽しいゆうえんちランド」を開設し、一年生を招待して手作りおもちゃやゲームの楽しさを味わうことができた。また、どの学習においても実行委員を決め、2年生なりに主体的に学習が進められるように工夫した。

3年生 「千坂レンコンをさぐる」

3年生では、毎年、地域の特産物であるレンコンを題材にして、学習に取り組んでいる。レンコンを育てて、食べるという活動で終わるのではなく、今年度もESD教育の観点から、地域のレンコンに愛着を持ち、千坂に残るレンコン田を大切に守り続けようとする心情を育てたいと考えた。そこで、レンコン収穫を待つ間、千坂レンコンの歴史、農家の仕事とその思い、流通、おいしさや栄養についてグループごとに調べる活動をした。調べる中で、レンコン田の減少や農家の悩み、地域の方のレンコンを思う気持ちを知り、千坂レンコンを守るために自分たちに何ができるかを考えた。そして、調べたことをお家の方や地域の方、全校に伝えることが、千坂レンコンを守ることにつながるとの観点から、授業参観での発表会や親子レンコンパーティを行ったりした。お家の方からたくさんの感想をいただき、自分たちの思いが伝わったという充実感を得ることができたようだ。また、レンコンの魅力伝えるポップを作成し、地域のス

一パーママーケットに置かせてもらったり、全校に向けてレンコンクイズラリーを行ったりすることで、レンコンの良さを広めることができた。この学習を通して、地域の多くの方とも関わり、確実に千坂レンコンや地域への愛着を深めることができた。

4年生 「住みよい町 千坂」

社会科で学習したごみ処理や水の浄化に関する学習と関連させて、総合的な学習の時間には、「住みよい町 千坂」をテーマにして、身近な環境問題に取り組んだ。ごみ焼却場や不燃物の埋め立て場、リサイクルセンターなどの社会科見学を通して、金沢市が抱えるごみ問題について理解を深めた子ども達は、ゴミを減らすために自分たちにできることを、紙・飲み物・食べ物・衣類の4つのグループに分かれて調べ、夕日寺小学校の児童と報告し合った。また、学校周辺に広がる水田やレンコン田を潤す水路についての学習を通して、きれいな用水を守っていききたい、きれいな水を守るために自分たちができていることをしているという意識を持つことができた。

5年生 「レンコン田のひろがる町」

5年生では、3年生の学習をふり返り、千坂でレンコンが大切に栽培されている理由について学習した後、学習の範囲を「加賀野菜」に広げて調べる学習を展開した。まず、加賀野菜の知名度や生産量、生産者数など現状について知り、守るという意識を持たせた。そして守るためにいくつかの加賀野菜の歴史や、栄養、メニュー、生産者の思いなど良さについて調べた。その後グループでまとめ、授業参観ではワークショップ形式で発表し、伝えることができた。全校にも加賀野菜クイズラリーを開いて、良さを伝えた。加賀レンコンしか知らなかった児童が、この学習をきっかけに金沢独特の野菜について知識を深め、加賀野菜を大切にしている生産者の思いにも触れ、金沢について学ぶことができた。



6年生 「千坂から世界を見よう」

自分のふるさと、金沢について知るために、金沢の伝統的な祭りや名所、伝統芸能から自分のテーマを設定し、調べ学習を進めた。また、課外の活動として、親子で金沢の名所を実際に訪れるなど学習に生かした。現地で見聞きしたことをPower Pointでまとめた。金沢の歴史、伝統、先人の知恵について考えを深めたり、金沢が「ユネスコ・クラフト都市」に認定された意味を考えたりすることで、世界の中の金沢を見つめ直した。学習のまとめとして、学年でプレゼン発表をし、さらに、奈良県の飛鳥小学校と互いの街について調べたことを壁新聞にまとめて伝え合った。県外の学校と交流したことで、金沢の良さを再確認することができた。

児童会の取り組み

環境委員会では、学校エコプロジェクトの一環として古紙回収に取り組んできた。紙はゴミではなく、資源であるという意識のもとに、地球防衛隊を結成し、集会やテレビ放送で呼びかけを行った。回収した古紙はトイレトーパーに交換してもらい、児童に見える形で意識の向上をはかってきた。前期は古紙回収に対する意識が低く回収率が悪かったが、後期は環境委員会の呼びかけによって意識が高まり大幅に回収率を上げることができた。

2 成果と課題

ユネスコスクール加盟3年目であり、昨年度課題であった学校間交流に力を入れ、交流先を探してきた。今年度は4年生と6年生で学校間交流を行うことができ、5年生も来年度台湾との交流を予定している。学校間交流を意識し、併せてカリキュラムの見直しも行ってきた。

さらに、ESDについて全職員で共通理解するために、校内研修会を開いた。昨年に引き続き金沢大学の鈴木克徳先生を講師としてお招きし、8月にESD教育の講義を受け、2月には、来年度の実践に向けて助言をいただいた。また、全学年で研究授業を行い、鈴木先生のご指導をいただきながら、学年で統一して学習を進めてきた。各学年掲示板もESDの学習履歴に統一し、学年間の取り組みも交流できるようにした。全職員がESDの意図や今後の展望についてより共通理解を深めることができた。

学習したことを発信する場として、3学年が授業参観で、保護者に何を伝えたいのかを明確に持った発信を行った。他学年の児童に対しても、何を伝えたいのか相手意識を持った発信を行ってきた。

課題としては、地域へ直接発信する場が少なかったということが挙げられる。来年度は、地域へ直接発信する方法、手段を児童と共に考え、もっとメッセージをもった学習にしていきたい。